



12月うぶやま天文台星空情報 1

水星が西方最大離角



天空が広がる一覽三山の台(久住山系、祖母山系、阿蘇山系の山々を一望できる)であるうぶやまの高原には、雪が舞う季節になりました。大変寒いのですが、冬は空気が澄み切っていて星空は一番きれいです。

晴れていれば肉眼で見える限界の6等星や、天の川まで見える素晴らしいうぶやまの星空を楽しみませんか。

12月のうぶやま天文台の星空情報の第1弾は、12月初旬に西方最大離角を迎え、高度が高くなり見頃になる水星の情報です。

水星は太陽系の最も内側を公転している惑星です。このため水星は見かけの位置が太陽から遠く離れることがなく、見つけやすい時期は太陽から見かけの位置が離れる「最大離角」の前後に限られます。

12月8日に、水星は西方最大離角を迎えます。産山では11月30日から12月16日までの間、日の出30分前の水星の高度が10度を超やすくなります。16日を過ぎて日の出前30分の水星の高度が10度を下回るようになっても、この頃の水星は明るさが-0.5等級ほどあるので、しばらくは見つけやすいでしょう。

山や高い建物などで視界が遮られていると、空の低い位置まで見渡すことができません。低空にある星を見つけるためには、東の空が開けている場所を選びましょう。低空に雲のない、よく晴れた日が観察には最適です。しかし、夜明け前の明るい空の中に水星を探し出すのは難しいかも知れません。そのような時には双眼鏡を使うと探しやすくなります。双眼鏡を使う時は太陽を見ないように、日の出前に観察を終えるようにしてください。

